



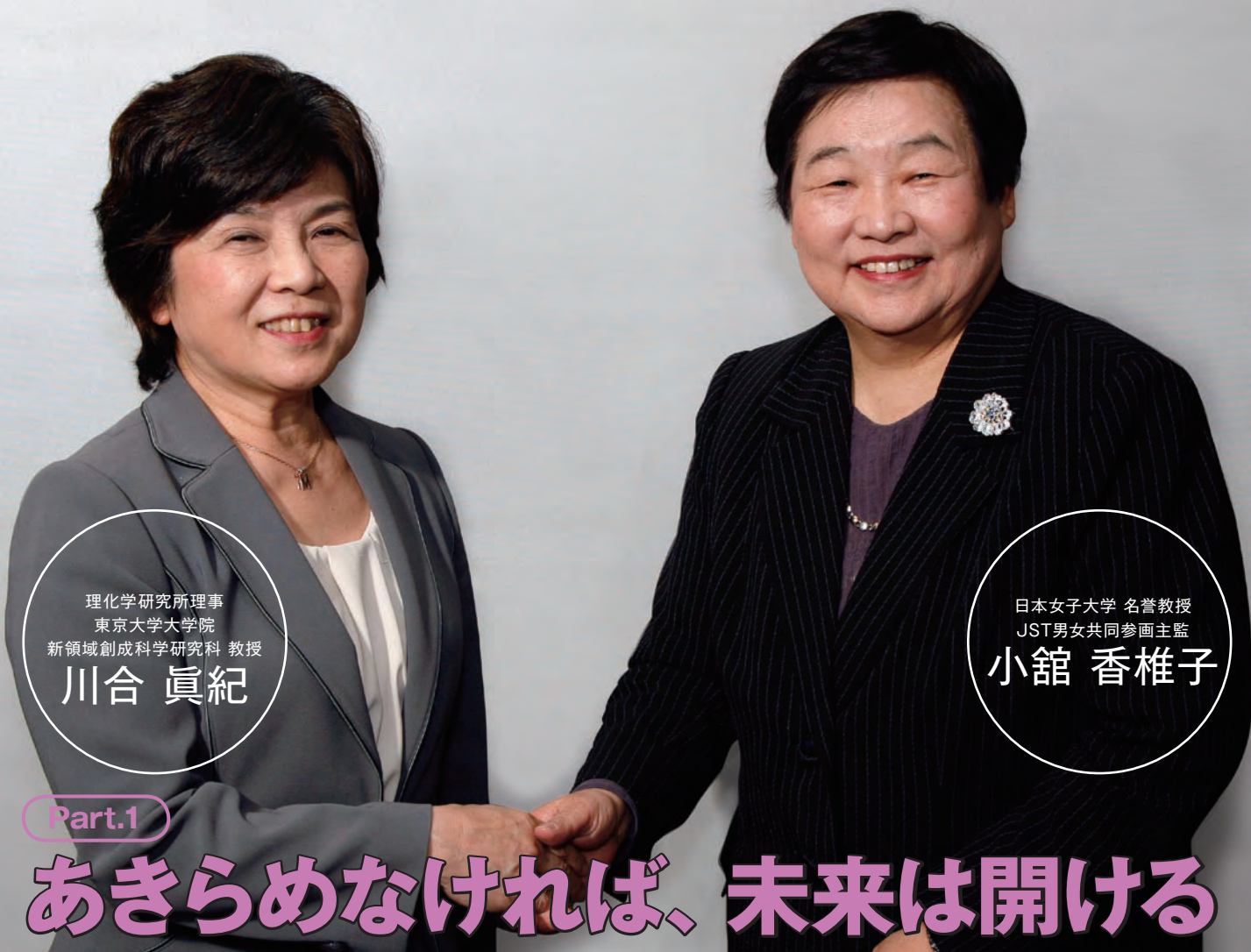
研究者として輝いている女性たちの歩んでいる道は？

特集

1

# 女性研究者のいま

「男女共同参画社会基本法」が施行されて13年。日本は、男女の個人としての基本的な尊厳を尊重し、一人の人間として能力を発揮できるような社会の実現を目指している。能力と成果を問われる研究者の世界では、性差なく活躍できる土壌が広がりつつあるようだ。



理化学研究所理事  
東京大学大学院  
新領域創成科学研究科 教授

川合 眞紀

日本女子大学 名誉教授  
JST男女共同参画主監

小舘 香椎子

Part.1

## あきらめなければ、未来は開ける

JSTの男女共同参画主監、男女共同参画アドバイザー委員会委員長を務める日本女子大学名誉教授 小舘香椎子さん、さきがけ「界面の構造と制御」の研究総括を3月まで務めた東京大学大学院教授 川合眞紀さん——研究者としてさまざまな成果を上げ、リーダーとして活躍する二人はチャンスをつかみ、自らの努力と周囲の支えで未来を開いていった。

### 研究者という道を選んだ理由

**川合** 私は理科は好きでしたが、あまり気負い込んで研究の道に進んだわけではありません。純粋に物理をやりたいという気持ちで大学に入学し、その後も研究が面白かったので、大学院の修士、博士課程へと自然な流れで進みました。母が東京工業大学教授だったので、出産や子育てをしながら研究に取り組む姿も身近に感じていました。ただ、今思えば母も非常に努力していたのでしょうか。

**小舘** 私の学んだ大学には、当時大学院はありませんでした。最終学歴は日本女子大学家政学部家政理学科です。研究者になることは考えていませんでしたが、卒業に際して、恩師から、「助手のポストが増員されるので大学に残らないか」と言われました。でも、その時の増員は見送られることになり、附属高校で専任の物理教師を務めることになりました。3年後、再び大学の助手のポストが増員されるからと、高校教員の辞表を書いたところで、またしても増員が見送られてしまったのです。途方に暮れる中で、ようやく東京大学工学部電

子工学科に非常勤技術員として勤務する予定になりました。ところが、今度はそこで教師の経歴が評価され、幸運にも助手として採用されることになり、5年間研究者としてイロハから学ばせてもらいました。これが「人生のターニングポイント」になりました。

**川合** 私と小舘先生はある意味、対照的ですね。私は学位を取ってからはポスドク(Postdoctoral fellow：一般に博士号を取得した任期制の研究者やそのポストを指す)として5年間で4か所も転々しました。理化学研究所特別研究生、次に日本学術振興会奨励

研究員。そして、1983年に夫が大阪大学の助教授になった時、ポスドクなら大阪でも同じだと思い、二人の子どもを連れていったのです。そこから先が結構大変で、大阪の公的機関で非常勤職員として実験助手をしたり、大阪ガスの研究所の契約社員をしたりと、落ち着いて自分のテーマを持ち研究するという環境は得られませんでした。この頃は研究者としてのキャリアを積むために、20を超える応募書類を出していました。

**小館** 結婚されたのは大学院時代ですか？

**川合** 博士課程1年の時に大学院の先輩と結婚、翌年には長男を出産しました。ただ、結婚直前に主人が愛知県岡崎市の分子科学研究所の助手になることが決まっていた。その頃の私は内心、研究者への道をあきらめて、一緒に行かなければいけないのかと思っていました。しかし夫は「東京に残り、学位を取りなさい」と私のキャリアを応援してくれました。

私の研究者としてのターニングポイントは、大阪にいた1985年に理化学研究所の研究員に採用されたときでした。ただ、それは主人を大阪に残し、別居するということを意味しました。それからずっと別々に暮らすことになるとは思いませんでしたが、あのときの選択がなかったら、研究者としての今の自分はなかったと思います。

**小館** 私が結婚したのは高校教師の時でした。夫は民間企業の技術者でしたが、教師なら家庭と両立できると考えていたと思います。それが、妻はいつの間にか研究者になっていました(笑)。

私は研究者として駆け出しの東京大学助手時代に長女、長男を出産しました。自分は

一人っ子でしたので、実家の2階に居候させてもらって、両親に子供の面倒をみてもらうことができ、恵まれていたと思います。ただ、東京大学電子工学科の助手で産休(産前産後休業)を取るのには、私が初めてのケースでしたから、それなりの努力は必要でした。2年後の2度目の出産の時には、研究室の教授だった神山雅英先生にご相談しました。すると先生は「自分が研究を続けたいという意志をしっかりと持っていて、環境が許すなら、公務員はきちんと権利があるのだから、胸を張って産休を取るべきです。どうしても継続が難しくなったら、そのときに考えればいい」と背中を押してくださいました。私が論文を発表したのは30歳の時で、研究者としては遅いスタートとなりましたが、この時の先生のご助言や周囲の理解に感謝しています。

### ライフイベントは不利に働くだけではない

**川合** 残念ながら、私は産休を取れる立場ではありませんでした。大阪に行く前に長女を出産しましたが、その頃は日本学術振興会の奨励研究員でした。長男、長女とも出生6週間目から乳児保育として預けて、迎えに行くのも家政婦さんやアルバイトさんをお願いしていました。

**小館** 私は日本女子大学に教員として戻ってから、次男(3人目)を出産しました。彼が3歳の時に、子育てをサポートしてもらっていた母が、病に倒れ入院してしまったのです。日常の育児、家事、更に母の看病のために病院での寝泊りが加わった上に、ちょうど学位論文を提出することになっていたので、この半年間は無我夢中で過ごしました。小学生の長男が6歳下の次男の面倒を見るなど、家族が一丸となって協力してくれましたので、研究を継続する希望を持って、乗り切ることができました。母が亡くなった後、父の生活の世話や介護なども、子供たちが交代で助けられました。

チャンスは男女平等。  
女性研究者にもどんどん活躍してほしいですね。

## 川合 眞紀

かわい・まき

理化学研究所 理事

東京大学理学部化学科卒業、同大学大学院理学系研究科博士課程修了。理学博士。理化学研究所特別研究生、大阪工業試験所(現・産業技術総合研究所関西センター)非常勤臨時職員、理化学研究所主任研究員などを経て2004年から東京大学大学院新領域創成科学研究科教授、10年から現職。06年から11年、JSTさきがけ「界面の構造と制御」領域の研究総括。

若い研究者の方から二人目の子供を産むのをためらう相談受けることがありますが、私は「一人より二人の方が、子供にとっても同じ環境の同士がいるのでいいのではないかと」答えています。

平成18年から国による女性研究者支援事業が始まりました。出産・育児期間中のサポートや研究活動の継続のための環境が少しずつ整備され、研究者同士の連携も進んで改善は図られていますが、まだまだ、本人とその家族の努力に負うところが大きいですね。

**川合** 子供が二人いても、子育ての手間が2倍になるということはないと私も実感しています。私自身も仕事が終わって、帰宅する途中で研究者から母へとスイッチが切り替わります。両方あるから、バランスが取れるのだと思います。ただ、女性研究者の中には「ポスドクの不安定な身分の間は、子供をつくれぬ」と言う人が、結構いるのです。私はたまたま大学院生時代に子供を授かりましたが、学生のうちだっというと思います。「若いうちに産んだほうが体力があるからラクよ」とアドバイスするのですが、やはり不安もあるのでしょうね。大きなライフイベントだとは思いますが、出産は普通に生きることのひとつです。研究を続けながらも自然に産出、子育てができる雰囲気を作っていきたいと考えています。

### 女性も研究を続けやすくするより積極的な取り組みを

**小館** JSTでは、今年4月から「第2期科学技術振興機構の業務に係る男女共同参画推進計画」が始まっています。この計画には①政策・方針決定過程への女性の参画の拡大②女性研究者への研究開発の機会の提供③女性研究者の裾野の拡大 という三つの主眼があり、きちんと数値目標を掲げ、達成したいと考えています。

「①政策・方針決定過程への女性の参画の拡大」としては、JSTの制度方針決定に関与するプログラムディレクター(PD)、研究開発課題を評価するプログラムオフィサー(PO)、アドバイザーや各種委員会委員等への女性の参画拡大を目標に設定しています。

「②女性研究者への研究開発の機会の提



■第2期推進計画期間(平成24年度~平成28年度)の女性研究者の数値目標(抜粋)

事業	課題評価者		各種委員会 委員	事業参加者 【応募者】
	プログラムオフィサー	アドバイザー		
<b>戦略的創造研究推進事業</b>				
新技術シーズ創出				
CREST(公募型研究)	5% (研究総括)	期間中に 1人以上 (左記を除く)	領域1人以上かつ CREST全体で 20%	1人以上かつ 「新技術シーズ創出」 全体で 24%
さががけ(公募型研究)	5% (研究総括)		領域1人以上かつ さががけ全体で 20%	
ERATO(総括実施型)	10% (パネルオフィサー)		パネル全体で1人以上 かつERATO全体で 17%	
先端的低炭素化技術開発 (ALCA)	期間中に1人以上 (運営統括)		分科会1人以上かつ ALCA全体で 17%	1人以上かつ ALCA全体で 17%
社会技術研究開発	期間中に1人追加 (領域総括・プログラム総括)		領域・プログラム1人以上 かつ社会技術研究開発 全体で 28%	1人以上かつ 「社会技術研究開発」 全体で 30%

出典:「科学技術振興機構の業務に係る男女共同参画推進計画」(JST)

供」としては、公募型研究開発事業への女性研究者の応募者を増やすことで、女性研究者の採択人数の引き上げを目指しています。

「③女性研究者の裾野の拡大」として、女子生徒の理工系分野への進路選択の支援を実施します。また、進路選択が必要な高校生の身近に理系分野で活躍する人がいない場合もあるでしょうから、JSTでは理系を目指す女子学生・生徒向けに『理系女性のきらめく未来』というロールモデル集を作っています(JST「男女共同参画」Webサイト <http://www.jst.go.jp/gender/rolemodel.html>にて紹介)。企業で活躍する理系女性の例が少ないため、現在、新しいロールモデル集を企画しているところです。

**川合** 最近増えているとはいえ、海外に比べると日本の女性研究者はまだ少ないです。2000年以前はドイツ、韓国、日本が最下位グループでしたが、ドイツ、韓国ではこのところ日本よりも女性研究者が増えています。何か有効な施策をとっているのでしょうか？

**小舘** 韓国では、1996年に梨花女子大学が世界の女子大学で初めて工学部を作りました。その時、韓国の経済界は工学部を卒業する女子学生に就職先、研究先を保証するという、バックアップを申し入れたそうです。

日本の女子大学には工学部がありませんが、以前、女子大学の連合で工学部ができなかつたかと文部科学省と経済産業省の方から言われたこともあります。女性のエンジニアを

増やすには、女子大学に工学部を作れば良いという発想で、一理あると思いました。

**川合** 入り口、つまり理系女子の人数を増やさないと、根本的な対策になりません。きちんと教育を受けた人でないと、大学も企業も採用しません。また、数値目標も大切ですが、女性研究者が研究、生活で困らないように環境を整え、男女とも仕事と家庭を両立させられる施策を考えていくべきだと思います。女性研究者が増えない理由として、潜在能力があるのに、経済的、社会的な理由で研究者の道を進めない可能性もあります。目先のところで、女性研究者育成のために入学金免除や奨学金など特別制度を用意するなど、具体的な施策を試してみたいほうがいいと思います。

**小舘** 電気通信大学では2011年度入学生から「UEC WOMAN修学支援特別奨学金」という制度を始めています。そして今年、新入生のうちの女子学生の割合が初めて10%を超えたそうです。ただ、せっかく素晴らしい制度を始めたのに、ご存じない方も多そうですね。もっとキャンペーンをして多くの方に利用してもらえれば良いと感じています。

**川合** そういう試みこそ、必要でしょう。うちの研究室でも、特に女性が多いということはありません。研究室に入る学生を男女で区

別することはありませんから、概ね入学した時と同じ比率の学生が在籍することになります。今年3月まで研究総括していたさががけ「界面の構造と制御」でも34人のうち女性研究者は一人しかいませんでした。ただ、この分野にはもともと女性研究者が少ないため、自然な割合だと思います。まず、裾野を広げていかなければなりません。

**小舘** 研究者は成果を問われますから。女性だからと特例制度を作って採用しても、2年、3年で優れた成果が上がらないと、制度に問題があると見なされます。しかし、制度や環境もずっと改善されてきていますので、女性も前向きに研究を継続し、積極的に公募研究にも申請し、ステップアップの機会を得てほしいと期待しています。

**川合** 女性だからという差別はなく、同じチャンスがあるわけですから、そのチャンスを大いに生かして女性研究者にもどんどん活躍してほしいと思います。

家族の協力のおかげで自分のやりたい研究を進めることができました。

## 小舘 香椎子

こだて・かしこ

日本女子大学 名誉教授

日本女子大学家政学部卒業。同大学附属高等学校物理担当教諭、東京大学工学部専任助手などを経て、日本女子大学理学部教授。工学博士。専門分野は情報フォトニクス(マイクロフォトニクスと光エレクトロニクスへの応用)。現在、JST男女共同参画主監ほか、専門技術の社会還元、理系女性の活躍の場の開拓のために設立した株式会社Photonic System Solutions代表取締役なども務める。

